

東京福社会だより



ひびき

郷音

〃響〃とは「郷」の「音」と書きます。私ども東京福社会では、この温かなものを大切に「心に響く葬儀」を目指しております。

「東京福社会だより（響）」は、個人会友、団体会友の皆様をはじめ都内の各福祉事務所・施設などに、配布しております。

読者の皆様の作品発表／
資料請求

体験寄稿文
『悲しみの中から…』
F・ーさん

聖恩山霊園のご案内

『会友Bプラン』
ご加入キャンペーン実施／
グループ学習会のご案内

東京福社会 活動報告等

『余白の美』
作家 玄侑 宗久さん

第68号 平成25年9月（通刊91号）発行

大正8年創立



社会福祉法人 **東京福社会**

道灌山会館 江古田斎場 ホール多摩国立

余白の美

作家
玄侑 宗久

人の晩年の暮らし方の選択肢が、
どんどん狭くなっているような気がする。
一言でいえば、自宅か病院か、
その他の施設か……。

その他の施設のバラエティは、次第に増えているようだが、なんだか
老いそのものが定型化していく気分
は拭えない。そして呆けていようと
いるまいと、老いた人々の智慧がど
うしてこんなふうに関離されてしま
うのかと、勿体なくて仕方ないので
ある。

どんどん増加しつつある認知症の
問題はたしかに大きいが、ここには
やはり、根本的な問題として東洋
人と西洋人の人生そのものの捉え
方の違いが横たわっているような気
がする。

つまりこの国らしくない福祉行政
が、この国の人らしくない晩年を強
いているのではないか。

何も知らない子供から分別を心
得た大人になることを、西洋では単
純に「成長」として喜ぶが、東洋
ではむしろ無邪気から邪気への移行
として寂しがる。一休禅師の作とも
言われる古歌が、それである。

幼子の次第しだいに知恵づきて
仏に遠くなるぞ悲しき

ここにおいて幼子は、仏に最も近
い存在とされる。

また成人から老年への移行も、
東洋では再度人間が純化されてい
く過程と捉える。単純に老化を、
成形からの衰えと見る西洋とはまっ
たく違うのである。

これは日本と西洋との、労働観
の違いにもそのまま重なる。

つまり西洋では、晩年まで働きた
いとはけつして思わないのに、東洋
とりわけ日本は、死ぬまで働きたい
人々で溢れている。思えば日本では、
神々まで農耕や機織りをしていた。
「はたらく」ことじたい、神と共に
ある楽しみだとされたのである。

だからこそ日本には、「翁」「媼」
が讃えられつつ存在している。子供
が神の子とされるのと同様に、翁・
媼も神々の如き存在と信じられて
きたのだろう。

こうした思考習慣は、むしろ現
代の脳科学にも支持される。子供
には流動性知能と呼ばれる直観力
があり、これは大人にはとうてい叶
わない能力らしい。また老人には結

晶性知能と呼ばれる総合的判断力
があり、感情に引きずられない平
等な判断力が加齢と共に増してい
くというのだ。

「結晶性」というのは、さまざま
な価値観が結晶のように総合的に
参照されることだ。いずれの価値観
にも偏らず、瞬時に総合的に判断
することができる。この能力は記憶
力などと違い、一生上昇し続けると
いうから凄い。

これはマニュアルを使いこなす、
といった能力とは対極をなす。たと
えば「黒船が来た」という全く未
曾有の体験に対し、無意識に沈潜
した無意識の智慧を、さっと引き出
す能力、といつてもいいだろう。

若いうちは本で読んだ特定の知
識や、友人などの言葉に直接影響
を受けやすい。しかし加齢と共にそ
のような直接の知識や経験は水面
下に潜み、いわば明鏡止水の状態で
即時に直観的に判断できるようにな
るといのである。それだけでも、
年をとるのが楽しみではないか。そ
うなるはずだったのである……。

もしかすると、現代社会そのも
のが、こうした直観力を期待しない
在り方に変化してきたのだろうか。

震災でマニュアルやマニュアルは無力だと痛感したはずなのに、未だに新たなマニュアルづくりに追われている自治体が多い。

公務員の仕事そのものが、パソコンの前に坐らないと始まらないせいもあるのだろうが、とにかく彼らは、パソコンを使った分析やシミュレーション作りに今も忙しくいそしんでいる。

そんなことを「仕事」と呼ぶなら、高齢者でなくとも嫌になっても無理はない。積極的に脱落しようとする人だっているだろう。そうして、人間の一部の能力だけを肥大化させた今の社会から、脱落した人々が入る場所が、いわば病院や福祉施設なのである。

そこで彼らは、いつたいどんな人々に囲まれるのだろう。

介護福祉士という資格がまだなかった時代を私は覚えているが、その頃は、本当に介護の仕事に適性のある人々ばかりが働いていたような気がする。むしろ、今のようにな職の希望職業に「介護」などなかった時代である。いわば物好きばかりが集まっていたのではないか。

ところが今や、就職難のなかで、やむを得ず福祉関係に進む人々も

多い。適性のない人々もいるから、マニュアルがなければ話が始まらない、という事態なのだ。

しかもそこは、薄給のうえ、極めて忙しい。どうしても効率が優先されるから、最小限の人数で目一杯の人数を看ている。不機嫌になっても仕方のない環境かもしれない。そう。老人達が嫌がって脱落したマニュアル社会が、ここにもあったのである。

今や本当にさまざまな施設がある。しかもどの施設も順番待ちという状況だから、老人たちにとっては「贅沢が言えない状態」である。

人生において、最も大切なのが晩年だと私は思うのだが、それがこんな状態で、いいのだろうか。

自分の晩年のためにも、日本の福祉行政にはそろそろ大きな転換を遂げてほしいと思う。

大きな勘違いは二つある。

一つは、日本人の晩年の価値観は、西洋人とはかなり違うのだということ。喩えて言うなら、油絵と日本画の違いかもしれない。アウトプットの減少は油絵にとつては造形力の衰えかもしれないが、日本画にとつてはようやく実現した余白の美である

る可能性もある。それほど違うものとして、日本人独自の晩年の在り方を見つめてほしいと思う。

もう一つは、もつと直観を大事にして動くほうが、職員の能力は発揮される、ということである。

東日本大震災のような激甚な災害が起こると、特に職員たちの直観力が施設利用者の明暗を分けた。慌ててマニュアルづくりをしているようだが、それだけではまた別種の災害であらためて混乱するだけだろう。まったく同じ災害は、二度と起こらない。その個性を見抜き、施設内のその時の状況を正確に把握し、最も相応しい判断ができるためには、なにより直観力こそが求められているのである。

細かいマニュアルを作り、それにこだわれれば、必ずやそのために現状の微細な変化が無視され、強引にマニュアルに当てはめたために起こる悲劇が量産されるだろう。

劣悪なシステムではあるが、とにかく日本の福祉は今や現場の職員の皆さんに支えていただukiかない。「お国のため」と思って、なんとか施設の充実に努めていただきたい。

玄侑 宗久 (げんゆう そうきゅう)

1956年 福島県三春町生まれ。慶応義塾大学文学部中国文学科卒業。
1988年 臨済宗福聚寺(福島県)副住職、2008年 同寺第35世住職。福島県警通訳(英語・中国語)、福島県立医大経営審議委員、東京禅センター理事、花園大学・新潟薬科大学客員教授、東日本大震災復興構想会議委員(2011年~2012年)。

第125回芥川賞(「中陰の花」)、第68回文藝春秋読者賞(柳澤桂子氏との往復書簡「般若心経 いのちの対話」)、第1回沼田奨励賞、など多数受賞。

<著書>「中陰の花」「般若心経 いのちの対話」「御開帳綺譚」「龍の棲む家」「四雁川流景」(文藝春秋)、「水の舳先」「アブラクサスの祭」「リーラ 神の庭の遊戯」「テルちゃん」「無常という力」「祈りの作法」(新潮社)、「阿修羅」(講談社)、「荘子と遊ぶ」(筑摩選書)、「日本的」「無功德」(海竜社)、「自然を生きる」「中途半端もありがたい」(東京書籍)、「地蔵のこころ 日本人のちから」(佼正出版)、「原子力と宗教」(角川ワンテーマ新書)、「花咲う」(廣済堂出版)、「福島に生きる」(双葉新書)、「光の山」(新潮社)、など多数。



展示相談会・ゝわ、の会

展示相談会の実施 ― ホール多摩国立・江古田斎場 ―

5月26日(日)にホール多摩国立、6月30日(日)に江古田斎場にて展示相談会を開催いたしました。

約60名(ホール多摩国立 13名・江古田斎場 約50名)の方々にご参加いただき、当日お願いいたしましたアンケートの結果、相続セミナー、個別相談等、大変好評をいただくことができました。

「展示相談会の主な内容」

- ①会場に祭壇・葬具・返礼品等を展示
- ②相続セミナーでは、専門スタッフによる「知っておきたい相続税改正と諸手続き」についての説明
- ③フラワーアレンジメント教室の実施
- ④個別事前相談
- ⑤人形供養



今後の予定

1.「展示相談会」など今後のスケジュール

開催予定日時	場所	主な内容
9月29日(日) 10:00~13:00	江古田斎場	展示相談会／写真撮影会／フラワーアレンジメント教室
11月13日(水) 10:00~13:00	ホール多摩国立	展示相談会／写真撮影会／手作りキャンドル教室
平成26年 3月1日(土) 10:00~13:00	道灌山会館	展示相談会／写真撮影会／人形供養

※参加費は一切不要です。

※都合により内容が変更する場合がございますので、事前にご確認ください。

2.「ゝわ、の会」今後のスケジュール

「和の時Ⅰ」・「和の時Ⅱ」、「話の時」

この「ゝわ、の会」は、「大切な人を失った悲しみから立ち直れない」、「この悲しみを誰かに聞いて欲しい」、「同じ体験をした人の話を聞いてみたい」という方など、どなたでも参加いただけます。

※参加費等は一切不要です。

※「話の時」にご参加の前に必ず「和の時」にご参加ください。

●ご参加方法●

開催日2週間前までに下記の番号までご連絡ください。

- ①お名前
 - ②ご住所・電話番号(任意)
 - ③参加人数
- をお願いいたします。

●お申し込み・お問い合わせ先●

電話**0120-00-5677**

(大泉葬祭相談センター)

受付時間／10:00~18:00

開催予定日時	行事内容		場所
11月7日(木) 10:00~13:00	和の時Ⅰ※1	葬儀を終えられて1年以内の方	江古田斎場
11月19日(火) 10:00~12:00	和の時Ⅱ	どなたでもご参加できます	
12月18日(水) 10:00~12:00	話の時	「和の時」に参加された方	
平成26年 2月7日(金) 10:00~13:00	和の時Ⅰ※1	葬儀を終えられて1年以内の方	
平成26年 2月19日(水) 10:00~12:00	和の時Ⅱ	どなたでもご参加できます	
平成26年 3月19日(水) 10:00~12:00	話の時	「和の時」に参加された方	

※1「和の時Ⅰ」には昼食をご用意させていただきます。

※開催日時につきましては、都合によりやむを得ず変更する場合がございますので、事前にお問い合わせください。

好評につき

『会友Bプラン』ご加入キャンペーン実施 この機会に、ご葬儀の際にお得な特典がある

会友 **Bプラン** にご加入を!

加入金 **10,000円**

※Bプランは生前に加入する必要があります。

※加入金のみで、月々の掛金・年会費は一切不要です。

【期間】平成25年10月1日(火)～12月31日(火)

期間中、会友Bプラン新規ご加入の方に、もれなく
「ふるさと小包(郵便局取扱商品)」1点プレゼント!

※プレゼントは「ふるさと小包」の商品の中から1点お選びいただけます。
※写真は「ふるさと小包」の商品イメージです。



基本葬祭料金

30%
割引

+

その他の特典

- ・生花10%割引(祭壇脇生花等)
- ・直営斎場利用料金50%割引
- ・貸し式場費用10%補填サービス
- ・生花1基サービス
- ・オプション品10,000円分値引き
- ・花とみどりのギフト券10,000円分進呈、他

期間中、AプランからBプラン変更の会友の方もキャンペーン対象です!

現在、会友Aプランにご加入中の方は、

加入金 **9,000円**で
会友Bプランに変更することができます。

社会福祉法人 東京福祉会 渉外部

03-3823-8026

ホームページからも加入手続きが行えます。

東京福祉会

検索

詳しくはホームページを
ご覧ください。

「グループ学習会」の開催を!

葬儀は、人生の最後の大切なセレモニーです。しかし、生活意識の変化や法律改正などにより、葬儀や相続についてよくわからない、という声が最近多くなっているようです。そこで、グループ単位(5人以上)で「葬儀や相続」などについての学習会を開催して、葬儀の費用・式の内容、相続・相続税の問題などに関する不安を解消しませんか。「東京福祉会」では、こうした皆様のために職員が、資料等を準備してお伺いいたしますので、お気軽にお問い合わせください。

※会場手配につきましては、ご相談ください。



●お問い合わせ先 社会福祉法人 東京福祉会 渉外部
電話 03-3823-8026(9:00～17:00 年中無休)
Email info@fukushikai.com http://www.fukushikai.com

聖恩山霊園のご案内

聖恩山霊園納骨堂は、大正10年8月、宮内省（現 宮内庁）より納骨堂建設用地として、御料地（現 練馬区小竹町）3,087㎡（934坪）を御下賜されました。大正15年、この地に納骨堂を建立して「聖恩山霊園」と称し、ご遺骨の保管業務を開始しました。その後、平成11年に霊園事業の充実を図るため、埼玉県入間郡毛呂山町に「第二聖恩山霊園」を建立しました。聖恩山霊園では、毎年、春・秋季彼岸会、盂蘭盆会の供養を挙行しております。平成25年4月現在、お預かりしておりますご遺骨は、41,070柱です。

供養料・保管料

聖恩山霊園納骨堂で、短期以外のご遺骨をお預かりする場合は、所定の容器（小壺）に移させていただきます。

「東京福社会」で、ご葬儀を施行した場合

遺骨保管の種別	保管期間	保管場所	供養料および保管料	
			供養料（受託時）	保管料
(1) 短期	1年間	聖恩山霊園納骨堂 個別収納庫	—	3,000円（受託時）
(2) 長期個別	13年間	聖恩山霊園納骨堂 収納棚	—	3,000円（毎年）
(3) 長期同壺	要問い合わせ	聖恩山霊園納骨堂 収納棚	3,000円	—
(4) 永代個別	33年間	聖恩山霊園納骨堂 個別収納庫	250,000円	—
(5) 永代同壺	要問い合わせ	聖恩山霊園納骨堂 個別収納庫	50,000円	—
(6) 永代合祀	—	第二聖恩山霊園 合祀墓	3,000円	—

※「東京福社会」でご葬儀を施行しない場合につきましては、お問い合わせください。



聖恩山霊園納骨堂



第二聖恩山霊園

聖恩山霊園納骨堂：東京都練馬区小竹町1-61-1（江古田斎場内）

第二聖恩山霊園：埼玉県入間郡毛呂山町南台4-29-7（第二むさしの霊園内）

お問い合わせ先（納骨堂管理事務所） 電話 **03-3530-8091**

悲しみの中から…

F.I (豊島区在住)

私の主人は平成23年8月9日に脳梗塞で亡くなりました。行年73歳でした。

結婚して49年二人の子供にも恵まれ楽しく暮らしておりました。ただ49年の間に主人が交通事故に遭い4回程入院いたしました。命に関わるほどのこともなく足の骨折等でした。主人も私も親を早く亡くしているので「長生きしないと子供がかわいそうだからね」、とっておりました。

しかし、何回もの交通事故の為だけだとは思いませんが頸椎と腰痛で歩行が困難になり平成19年に頸椎と腰を同時に、手術することになりました。当初7～10日間程度の入院と云うことでしたが、糖尿病が悪化し3か月半の入院となりました。また、入院中に目が悪くなり退院時には歩行も困難で、視力も道路の白線が少し見えるほどでした。そして一年後には視覚障害1級、身体障害2級と認定されました。

主人は大学のOB会の会長、地元自治会長・老人会長などをやっており、それなりにプライドも高く、今の何も出来ない自分の姿を他人に見られたくない、と云う意識が強く友人とも会うことはしませんでした。

さいわい、私達家族三人がヘルパー2級の資格を持っていたので家庭介護をしておりました。しかし、途中失明の介護は想像以上に大変でした。

主人は、ついこの間まで出来ていた事が出来ないいらいだちで、私達家族の云うことには耳をかさなくなり、双方ともに疲れ果ててしまいました。

そこで、主人とも良く話し合った結果、知り合いのいない視覚障害と身体のリハビリが可能なデイサービスセンターをさがし、週3日通うことに決めました。それと週6日ヘルパーさんをたのみました。病院にもヘルパーさんと私達家族が一緒に行きました。食事もデイサービスにいかない日は昼食、デイサービスのある日は夕食もヘルパーさんをお願いし、それ以外の時だけ家族

が介護することにしましたところ、生活のリズムがうまく回る様になりました。

ところが平成23年6月21日未明、急に意識不明になり、救命センターに緊急入院しました。医師からは、脳幹に梗塞を起こしているので手術が出来ず、このままの状態が続くと云うことで、延命措置をするかどうか聞かれ、家族三人とも延命措置はしないが、その時々で一番良い治療は《本人が楽なように》してくださいと、お願いいたしました。それから50日間一度も意識がもどることなく旅立ちましたが、亡くなる三日前に主人の兄弟には、お別れにきていただいたので、主人もさぞうれしかったのではと、今はそのように思いめぐらし、自らを納得させています。

思い起こせば、その時の私の気持ちは、悲しさというよりなにか虚しいと云うか、虚脱感で頭が真っ白で涙も出ませんでした。何故か泣けないのです。

悲しくて泣けて涙したのは、それから一年たってからの日々でした。精一杯できるだけのことはしてあげたと思う一方で、主人のつらい時《目が見えず体も不自由になっている時》心に寄りそってあげられなかったのではと思われて、それが一番心残りです。

今は、主人にしてあげられなかった事を少しでも他人に出来たらと思い、グループホームで認知症の方々のボランティアをしています。この活動は、自分の体の動くうちは続けていこうと思います。最近、特に自分の持てる力を他人のために尽くすことが、いかに尊いかということ、気付かされ日々を送っています。これも「わの会」のお陰であり、「わの会」は今の私のよりどころです。この会を卒業なしで、いつまでもうかがわせていただきたいと思います。三橋先生並びに諸先生、福社会の皆様へ感謝しております。ありがとうございます。

読者の皆様の作品発表

俳句

S.K (練馬区在住)

孟蘭盆会無事にお参り安堵する

余生なを八十路の心敬老日

花野道咲き誇りたるコスモスや

Y.K (練馬区在住)

齡経て十薬の白愛ほしく

下草刈り姑に仕込まれ六十年

俳画

S.S (練馬区在住)



<編集後記>

発行時期変更のお知らせ

皆様には「東京福祉会だより(響)」をご愛読いただきありがとうございます。例年3月、7月、9月に発行しておりました発行時期を来年から1月、5月、9月に発行することになりました。従いまして次号の発行は1月となります。

引き続き皆様に親しまれる機関誌となるよう努めてまいります。皆様の「東京福祉会だより(響)」に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

■ 葬儀に関する詳しい資料(施設案内、料金表(仏式、神式、キリスト式、花祭壇など))をご用意しております。お気軽にご請求ください。



- ① 仏式のご案内 ② 花祭壇のご案内 ③ 道灌山会館のご案内 ④ 江古田斎場のご案内
⑤ ホール多摩国立のご案内 ⑥ 会友制度のご案内 ⑦ 葬祭のしおり

■ 資料のご請求はこちらまで

電話 **03-3823-8026**

東京福祉会 渉外部

<E-mail> info@fukushikai.com

東京福祉会

検索

<http://www.fukushikai.com>



「東京福祉会だより(響)」は再生紙を使用しています。